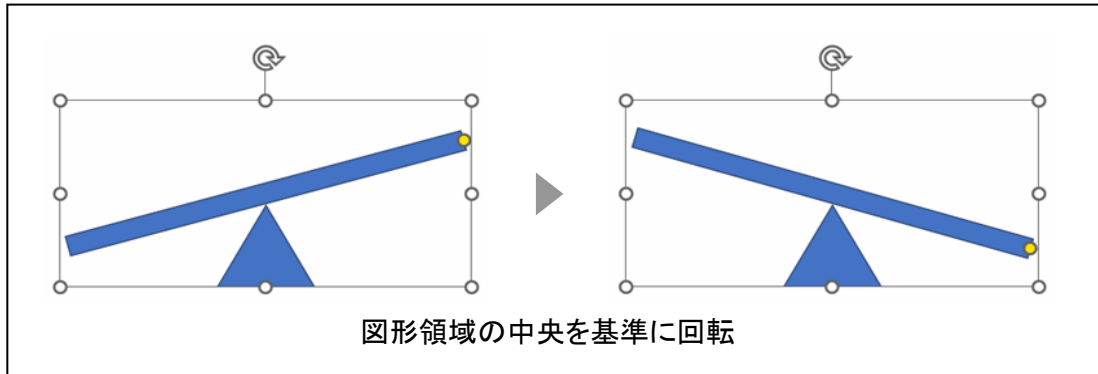


## 回転移動と放射移動(polar調整ハンドル)

V4から図形領域の中央を基準(ooxmlの仕様)とした以下の移動に対応しました。

- ・回転移動(角度変更)
- ・放射移動(半径変更)



※円や円弧はカスタム図形にした時点でベジエ曲線に変換されるため、以下のようなことは出来ません。

- ・円弧の伸縮
- ・円の形を維持したままの放射移動

## 入力ファイルの準備

xy調整ハンドルの時と同様にカスタム図形を準備してください。

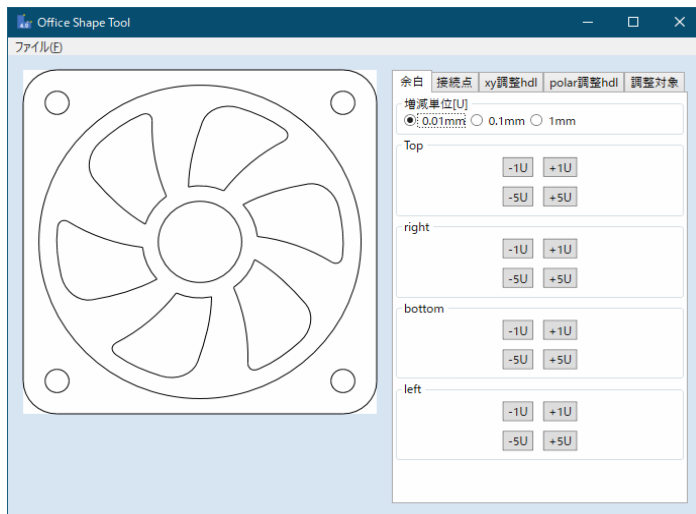
解説では以下のカスタム図形を使います。

※xy調整ハンドルの時と同様、(画像(pngやjpgなど)ではなく)カスタム図形が1つだけ保存されたpptxファイルが必要です。



# ツールの使い方

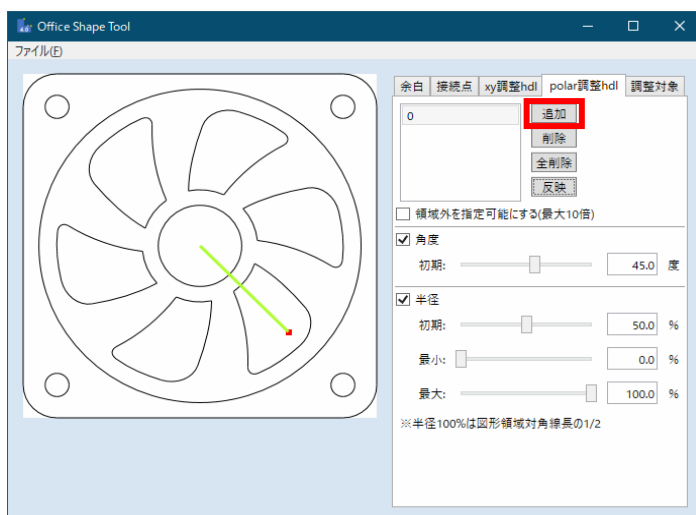
1. ツールを起動し、メニュー→「ファイル」→「開く」から、作成したpptxファイルを開いてください。



※図形領域が細い場合、PowerPointで上手く回転出来ないことがあります。  
その場合は、上下 or 左右(細いほう)に余白を追加すると改善する場合があります。  
※「角度」「半径」の中心はooxmlの仕様上図形領域の中央のみとなります。  
※解説では図形領域の中央が回転の中心なので余白追加は不要ですが、回転の中心を別の場所に設定したい場合は、「余白」タブを開いた状態で図形内をクリックすると、そこが中心となるよう余白が追加されます。

## 2. 調整ハンドルの追加

「polar調整hdl」タブで「追加」ボタンを押して調整ハンドルを追加します。



図形の領域より外に調整ハンドルを移動させたい場合、  
「領域外を指定可能にする(最大10倍)」のチェックボックスをチェックします。  
チェック前の各スライダーの移動範囲: 0%~100%  
チェック後の各スライダーの移動範囲: -1000%~1000%  
※「初期」のスライダーは図形領域内のみの指定となります。

調整ハンドルは、角度のみ、半径のみ、角度・半径両方が選択できます。

「角度」「半径」チェックボックス: 調整ハンドルの移動内容の選択

※「調整対象」タブで紐づけ後の場合、変更すると紐づけが切断されるので注意

※PowerPointの規格上8個を超える調整ハンドルは許容されない可能性があります。

※「角度」の最小/最大は0度を跨ぐ場合、PowerPointが意図した処理をしてくれないので指定出来なくしています。

※「角度」は右辺側が0度で時計回りになります。

※「半径」の100%とは図形領域の中央から図形領域の角までの長さです。

今回は、1つのファンに合わせて設定します。

「角度」チェック

初期=51

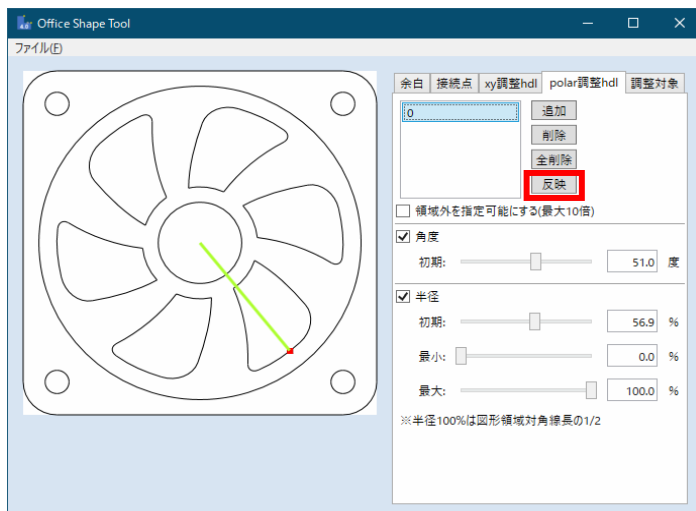
「半径」チェック

初期=56.9

最小=0

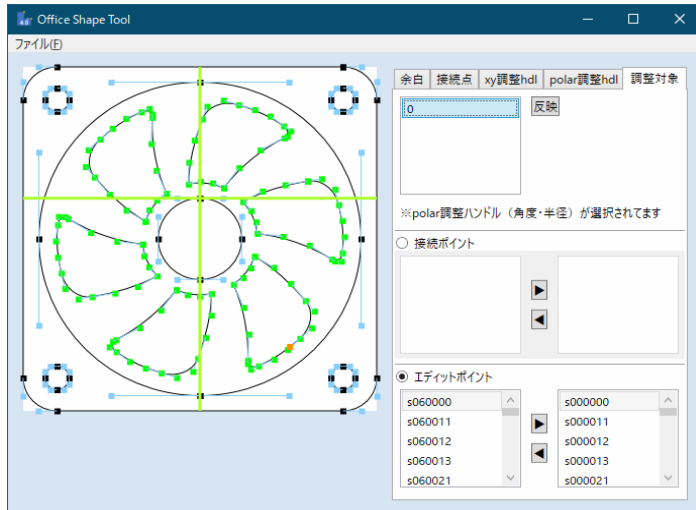
最大=100

「反映」を押して設定した内容を反映します。



### 3. 調整ハンドルと調整対象を紐づけ

「調整対象」タブで「0」の調整ハンドルを選択します。  
オレンジ色の点が調整ハンドルの位置となります。  
今回は、ファンをすべて選択して「反映」ボタンを押します。



※マウスで囲って「▶」で対象リストに追加、「◀」で対象リストから除外を何回か繰り返せば図の緑色の点が追加できると思います。

### 4. 保存

メニュー→「ファイル」→「保存 (pptx)」か「保存 (odp)」を選択すると、入力ファイル名の末尾に「\_a」がついたファイルが保存されます。

本ツールはpptx形式のみの読み込み対応のため、odp形式の保存で再編集の可能性がある場合は、pptx形式でも保存しておいて下さい。

### 5. 動作確認

保存したファイルをPowerPointかLibreOfficeで開いて想定した動作になっているかどうかを確認します。（拡張子pptxはPowerPointで、拡張子odpはLibreOfficeで開いてください）  
線の色や図形の色がついてない場合があるかもしれないので、その場合は、PowerPointかLibreOfficeのメニューから任意の色を設定して下さい。



変形前



回転・半径拡大



回転・半径縮小